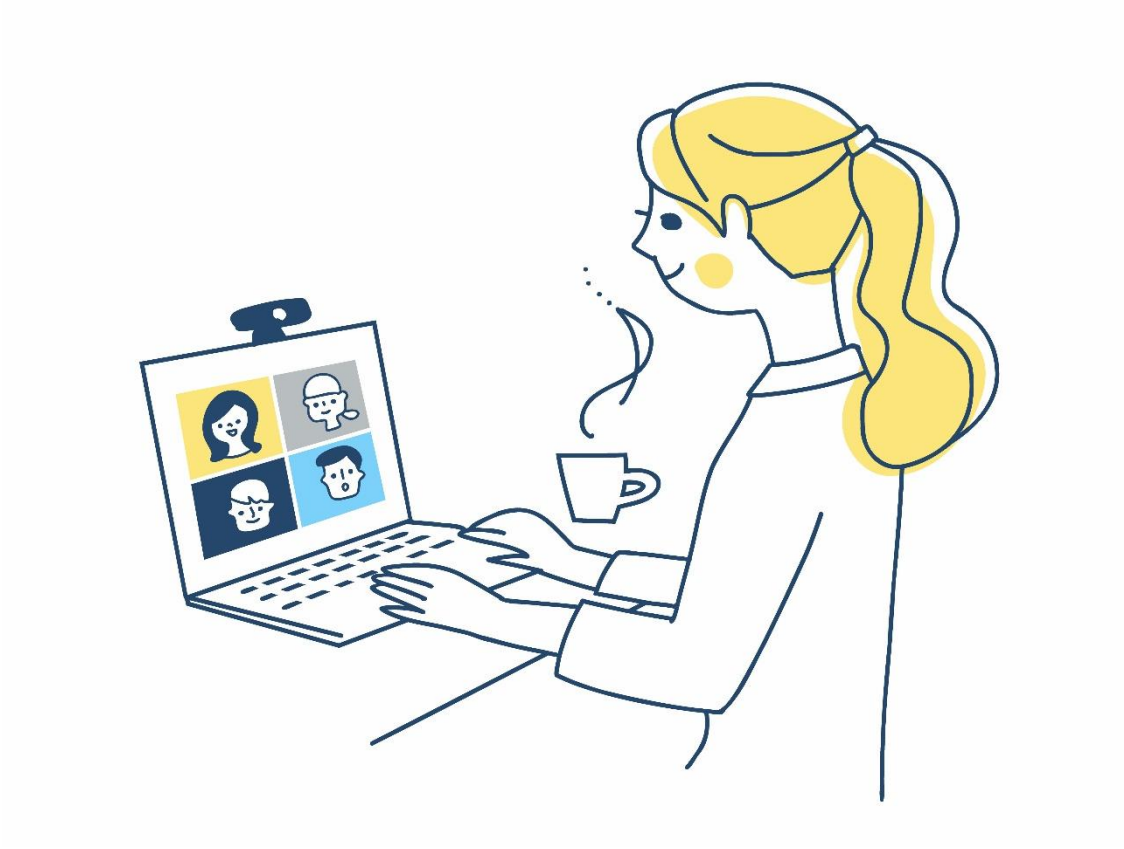
メンター制度が求められている理由



メンタリングで、”潤いのある職場”をつくる

株式会社プレスタイム

前置き

「若手社員が、すぐにやめてしまう！」

「メンタル不調者は、増えている！」

「職場に活気がない！コミュニケーションが少ない！」

今、メンター制度を導入する企業が、本当に多いです。

なぜ、なのでしょう？

福利厚生、人事制度は整えているのだけど、なぜだろう。

そんな人事担当者の悩みは尽きませんが、

そこで、質問です。　**「あなたは、今の職場は楽しいですか？」**

エンゲージメント指数はいかがでしょう。

職場では、自由にコミュニケーションを取り合っていますか？

今、働いている人に必要なのは、**「潤いのある職場」**ではないでしょうか。

＜ 目次 ＞

- 前置き
- 社員同士のふれあいがなくなる
- 職場のエンゲージメント指数の低さ
- 職場は、仕事だけの結びつきの場なのか？
- 「メンター制度を導入したい！」の声、声…
- オンラインでもメンタリングはできる！

社員同士のふれあいがなくなる

バブル経済の崩壊以降、多くの企業で終身雇用制が維持できなくなり、雇用は流動化しました。グローバル化社会と IT 化の進展により、以前に比べ、企業の組織文化は、より効率性が求められ、いい意味での家族的な社風は、昔のものになりました。また、コロナ禍の影響で、多くの企業では、テレワークも当たり前のものになりつつあります。そのような中では、組織の中での社員同士のふれあいは、縁遠いものになりました。

一見、効率化という意味では、”いい組織風土になった”といえるのでしょうが、大多数の人は、この職場環境に肯定的なのでしょうか？

職場のエンゲージメント指数の低さ

社会のメンタルヘルスの課題は、取沙汰されて久しいです。日本国内の企業におけるエンゲージメント指数（組織への愛着度）の低さは、すでに定説となっています。キャリア教育自体は悪いことではありませんが、その教育を若い時から受けた人たちは、企業をキャリアの一ステップとしか見てないように感じます。

人生において、組織の中で過ごす時間は、かなりの年月になります。その多くの時間を、「組織の目標･課題を達成するため」「キャリアアップのため」「生活の糧を得るため」だけの時間として、組織のなかで過ごすことに、空虚感を持つ人は、多いのではないでしょうか。

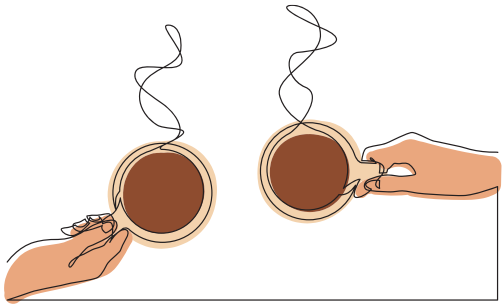
職場は、仕事だけの結びつきの場なのか？

エンゲージメント指数は、組織の目的・仕事や、職場の人たちに対し、愛着を持てなければ、当然、上がりません。エンゲージメント指数という尺度が重要であるとすれば、もっともっと職場での楽しさや幸福感が必要と言えるでしょう。人間社会は、お互いにコミュニケーションを取り合うことで、成り立っています。そのコミュニケーションは、仕事以外のコミュニケーションも必要です。誰しも、仕事以外に、大切な家族や友人がおり、趣味や地域活動があります。職場の人同士も、仕事だけで結びつくだけではなく、様々なことを話し合いたいし、知り合いたいのだと思います。

「メンター制度を導入したい！」の声、声…

今の職場は、様々な要因が重なり、癒しや憩いの時間が取りにくくなっています。また、何人かの人は、そのようなコミュニケーションは取る必要もないと、思い込んでいるようにも感じます。無味乾燥した職場に、耐えられず、早期退職する若手社員の多さから、メンター制度導入の声が多く上がっています。また、コロナ禍になってからは、職場のコミュニケーション（雑談）の時間を増やしたいという切なる願いが、年々多くなっています。

メンタリングは、相手と仕事での関係を超えて、何でも自由に対話することです。誰もが、職場に潤いを欲するようになってきました。
職場が楽しくなれば、定着率は上がりますし、メンタル不調者も減るでしょう。上司と部下が、メンタリングのように、”何でも話し合える関係（信頼関係）”があれば、必然的に、健全なマネジメントになります。仕事と職場に愛着を持てば、生産性も上がります。様々な理由から、メンター制度を導入する企業は増えています。



株式会社プレスタイム

オンラインでもメンタリングはできる！

まずは、メンタリングで自由に対話できる素晴らしさを体感してください。そのメンタリングの線と線が面になり、職場がメンタリングの場のように、自由闊達なコミュニケーションが飛び交えば、組織と個人のエンゲージメントは高まります。メンタリングは、遠くの人でも、オンラインで手軽にできます。テレワークの社員、職場が離れている社員同士でも、潤いのあるコミュニケーションが実現できるのです。

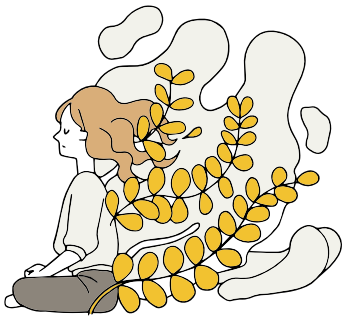
職場で必要なこと
～ メンタリングえられるもの ～

1. 安らぎたい

- 誰かの顔を見たり、声を聴いたりしてホッとしたい
- 気持ちを分かち合うことで、不安や悩みを和らげたい
- とりとめのない話を聴いてもらいたい
- 生活や仕事など様々な情報を共有し安心したい

2. 希望を見出したい

- 誰かの話を聴いて思いをめぐらせたい
- 話し合うことで何かの気づきを持ちたい
- 自分のアイデアやプランを伝え、意見を聞いてみたい
- 話し合うことで、何か前向きな気持ちになりたい



無料説明会のご案内

メンター制度導入のポイント・メンター／メンタリングの基礎知識の理解をねらいとした「メンター制度無料説明会」を開催しています。導入のポイントや他社事例の紹介、また、メンターやメンタリングの基礎知識をお伝えします。さらに、簡単なワークを体験していただき、メンタリングの必要性と楽しさを実感していただきます。
既にメンター制度を導入された企業・団体様もどうぞご参加ください。

※　当説明会は㈱プレスタイムと NPO 法人日本メンター協会との共催です。

お申込：
https://presstime.co.jp/program/mentor_free/

株式会社プレスタイム

所 在 地　〒104-0061 東京都中央区銀座 7-17-2
アーク銀座ビルディング 7F

設　立　1975 年 8 月 19 日

代表者　代表取締役社長　藤田　恵介

取引銀行　みずほ銀行　三菱 UFJ 銀行

取 引 先　企業、学校（小、中、高、大学）、
自治体等の諸団体（約 3,000）、個人（多数）

お問合せ　フリーダイヤル：0120-033-796
代表：03-6264-1180
Mail：info@presstime.co.jp
Web：https://presstime.co.jp